

# 移動・文化・社会の再設計

新学術創成研究機構 未来社会創造研究コア  
「文化遺産国際協力ネットワーク」 「自動運転ユニット」 「学際・交流研究会」

## Re-Designing Future

7月26日(火) 16:30～  
人間社会第1講義棟314教室  
主催：新学術創成研究機構

Presentor

前田 昌弘 (京都大学助教 建築計画学)

「歴史・文化の表象としての建築の可能性 —スリランカ 旧紅茶農園再生を通じて—」  
スリランカで「負の遺産」とみなされることも多い旧紅茶農園の歴史や生活文化を地域再生の資源として捉え、  
現地の NGO や住民とともにすすめる建築や場所の再生を通じてそれらの資源に潜在する価値の再発見と共有化  
を内外に促し、コミュニティの未来を開くための実験的な活動をしている。  
今回はそうした活動を紹介していただきながら、社会設計を行うなかで、歴史・文化的な環境要素とその表象  
としての建築がいかなる可能性を持つかという点を議論する。

榎原 充大 (建築家/リサーチャー、Research for Architectural Domain)

「ただそこにある資源」  
国内外を対象に建築/都市リサーチを行いながら、情報技術などを駆使しつつ、その成果を文章、書籍、ウェブ  
サイト、展覧会、改修および新築プロジェクト、まちづくりの土台づくりなどにつなげている。過去の遺物は必ず  
しも保存の対象としてあるだけではなく、プロジェクトの中で予期せず出会うものでもあり、そうした過去の遺物と  
ともにあるプロジェクトについてお話していただく。

司会 谷川 竜一 (新学術創成研究機構・助教)

INF/INT/  
新学術創成研究機構



金沢大学  
KANAZAWA  
UNIVERSITY

「移動・文化・社会の再設計」研究会  
開発・発展・進歩をキーワードとする未来社会のあり方ではなく、目下到来している人口減少、経済停滞の課題に向き合いながら、持続可能な社会に向けた  
ソフトランディングの思考・手法が、いま問われている。多様な人々が行き交い、様々な文化が混淆する現代社会のなかで、私たちは技術や人的ネットワー  
クを駆使しつつ、どのような文化社会空間を構想するべきなのか。こうした問題意識をもとに、金沢大学・新学術創成研究機構内の未来社会創造研究コアに  
おける「文化遺産国際協力ネットワーク」と「自動運転ユニット」では、ユニット間の学際研究会として、移動・文化・社会の未来像を考察す  
る。主催：新学術創成研究機構・文化遺産国際協力ネットワーク/自動運転ユニット (担当・谷川竜一 tryuichi@staff.kanazawa-u.ac.jp)